

令和3年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

教育目標	《建学の精神》 質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和と統一のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす
	○社会の変化に柔軟に対応し、生きる力と豊かな心を育む教育
	○互いの立場を尊重し、生徒・保護者・教師がともに幸せになれる教育

今年度の重点目標	『教育理念の確実な取り組み』
	1, 「5J」の浸透と具現化 (①自主 ②自律 ③自覚 ④実践 ⑤自治)
	2, 「鳥取城北生5つの誓い」励行
	①さわやかな挨拶をします
	②礼儀正しい服装や言葉遣いをします
③人を大切に自分も大切にします	
④学ぶ姿勢を大切にします	
⑤自ら考え責任ある行動をします	
3, 目指す教師像に関連し、積極的な授業改善を行う。	
4, 目指す学校像に関連し、しっかりと進路保障を行う。	

評価項目	評価の具体項目	年度当初			最終評価	
		現状 (R2年度実績)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 次年度に向けての改善点等
学力強化	1-③ 生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。 2-④ 3	・学習時間推移(1学期⇒3学期×3年は2学期) 1日当たりの平均値 1年生 122分⇒144分 2年生 129分⇒132分 3年 133分⇒68分 ・到達度テスト正答率 研志・スポ科 1年 46% 2年 34% 3年 29%	・スタディサプリ到達度テスト正答率50%達成 ・年度当初と比較して、家庭学習時間が増加している	・スタディサプリの活用およびテスト結果に基づく苦手克服を実施 ・課題配信、定期考査範囲への設定、長期休業中の課題として活用する。 ・実用英語技能検定の取得を目指し、Monoxerを活用することで学習時間の増加を促す。 ・定期的に学習時間調査を実施し、学習時間を把握する。 ・プラスアルファや放課後の時間を利用して学習習慣をつける。	学習時間(1日当たりの平均)推移 (1学期⇒年間平均×3年は2学期まで) 1年生 96分⇒95分、 2年生 107分⇒112分、 3年生 126分⇒129分 到達度テスト正答率 研志・スポ科 1年生 50.1% 2年生 41.2% 3年生 38.5%	B 定期考査毎の学習時間調査の確実な入力徹底。(未入力をなくす) 到達度テストの結果を活用した直しや苦手単元の学習の復習の機会設定。 到達度テストを視野に入れた3教科での継続的な対策の取り組みを実施し、生徒に明確な目的意識を持たせる。
進学指導	1-③ 生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。 1-④ 2-④ 4	3年生：現役国公立大学(29名) 難関私大(15名) 合格者数44名 2年生：1月進研模試国数英総合 SS50以上28名 1年生：1月進研模試国数英総合 SS50以上44名	3年生：現浪合計国公立大学70名合格 (うち、鳥取大学レベル30名合格) 難関私大10名合格 * 関関同立、GMARCH、早慶上理ICU 2年生：1月進研模試国数英総合 SS50以上50名 1年生：1月進研模試国数英総合	・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・地元大学の授業体験を積極的に行い、大学教員との交流を深める。 ・難関大志願者を対象とした進路プログラムを実施する。 ・生徒面談を積極的に行う。 ・2年生合宿・3年生合宿、栄光塾合宿を実施する。 ・実用英語技能検定の取得を促す。	3年生：現浪合計国公立大学39名合格 (うち、国立大学30名合格 鳥取大学12名合格) 難関私大21名合格 京都大学、国立薬学部 合格 * 関関同立、GMARCH、早慶上理ICU 2年生：1月進研模試国数英総合 SS50以上22名 1年生：1月進研模試国数英総合 SS50以上38名	B 進路LHRなどを利用し、早期に志望校を決定すること。 総合型・学校推薦型の受験者に対して適切な進路指導をすること。 一般入試後期受験までを見据えた受験指導をすること。
就職指導	1-③ 全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就労意識を構築し、第1志望内定率を上げる 1-④ 2-④ 4	・就職内定率100% ・第1志望内定率86.2%	・「内定率100%」を早期に実現 (1月中旬まで) ・第1志望内定率80%以上 (就職希望者：47名) ・公務員試験合格率70%以上	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化。 ・インターンシップ・企業説明会・企業見学・アルバイト・様々な種類の講話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等。 ・公務員対策サポート講座	・1月中旬までに内定率100%を実現 ・第1志望内定率80.0% (学校紹介希望者：20/25名) ・自己縁故4名 公務員9名合格 就職計33名	A 第1志望内定率を高めるため、より組織的な面接指導の推進、個別面談の充実、外部機関との連携による職業意識の向上などを図る。 インターンシッププロジェクトを就職につなげるよう改善する。
生徒指導	1-① 頭髪服装規定を理解させ、主体的に身だしなみを整えることを通して規律ある生活習慣を身につけさせる。 1-② 1-③ 2-② 2-⑤	頭髪服装検査において初回合格率が85%を超えており落ち着いた様子である。違反や検査不合格を繰り返す生徒が決まってきたので、担任と連携して指導をおこなう必要がある。	・日常の中で、規範意識を持ちながら5Jを実践し自らの姿を正しくつくりあげる事ができる。 ・毎日の身だしなみチェックで正しい頭髪服装を自らがチェック	・身だしなみチェックを活用しながら、日々指導の積み重ねを大切にする。 ・違反者への段階的指導を徹底しておこなう。 ・必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。	服装頭髪指導により、指導を受けなくてもきちんとしていた人は「76.3%」、遅刻をしていない人は「83.5%」、校則や交通安全ルールを守って学校生活を送ることができたは「89.9%」とほとんどの生徒は規範意識を持ちや基本的な生活習慣は確立された。	A 指導を受けなくてもきちんとしていた生徒の増。一部の生徒による身だしなみの乱れや、遅刻指導者に対して早期指導の重点強化。
生徒会	1-③ 1-④ 1-⑤ 2-① 2-②	生徒主体の生徒会活動を活発にさせる。 生徒会活動への参加意識が高まったとあてはまる・だいたいあてはまると感じた生徒 66%	生徒会活動(学級役員)への参加意識が高まったとあてはまる・だいたいあてはまると感じた生徒 80%	・生徒会執行部会を毎週実施する。 ・校内放送・掲示板を活用し、生徒会活動のPRや啓発を継続的に行う。 ・過去に囚われず、コロナ禍の逆境を乗り越えて新しい学校行事を考える。	生徒アンケート「学級役員の活動や学校行事を通して、生徒会活動への参加意識が高まった。」 あてはまる+だいたいあてはまるが70.3%と前回アンケートよりポジティブ回答が増えた。 後期は各種学級役員の取り組みを増加させたことで意識が高まったのではないかと考える。	B 各種委員会の動きは見られたが、生徒会を中心として、生徒全体が学校をよりよいものにしていこうという気持ちにさせる仕組みを考えていかなければいけないと感じた。
人権教育	1-② 1-③ 2-③ 2-⑤	人権教育LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。 人権問題に対する考えが深まったと回答した生徒が95.3%であった。	・生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・人権教育LHRを充実させると共に、日常のあらゆる場面において生徒の人権に対する意識を高める。 ・クラスの実態に即した目標設定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。	人権問題に対する考えが深まったと回答した生徒が96.7%であり、中間評価時の95.1%より向上した。 1年 94.7% 2年 98.2% 3年98.1%	A 人権教育LHRを充実させるために学年ごとの研修会を深めていく。 ・個別面談を利用し、クラスの実態把握を行い人権教育LHRに生かしていく。
ICT推進	3 4	ICTを活用した教育活動を推進するため、生徒教員ともにICTスキルを高める。 教職員アンケートで (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点) B評価 平均点2.9	Google Classroomをはじめとした Google Workspace for Educationや Monoxer、ロイロノートなどのアプリを、授業と家庭学習において活用できるようになっている。	・ICT推進リーダーの教員が活用セミナーを受講し、そのスキルを学年や教科で共有するための研修などを行う。 ・ICT活用をテーマとして研究授業を各教科で実施する。	教職員アンケートで 平均点2.9 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B ICTを活用することがなぜ必要なのか、その目的を教職員に理解してもらえよう発信を行う。 教科・コース・学年におけるICTの具体的な使用場面を検討し、教員間で教え合いをしながらICTスキルを高められるような組織作りを行う。
授業向上	3 4	生徒を伸ばすために教員の授業スキルをさらに高める。 教職員アンケートで (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点) B評価 平均点2.9	教材研究や指導法研究を常に意識し、年度当初に比べて自らの教科指導力が向上したと実感できている。	・ファインドアクティブラーナー等を活用し、教員個々および教科会で授業方法の研究を行う。 ・研究授業、授業見学を通して、互いに研鑽し合う。	教職員アンケートで 平均点3.1 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B 研究授業について実施計画を立て、教科主任会⇄教科会で授業改善の取り組みを推進していく。